

令和3年度 あきたスマートカレッジ A講座内容報告

A 新たな学び講座

新しい学びをこれから始めたいと考えている方や、学んだことを生かして地域等の活動につなげたいと考えている方を対象に、生涯学習の意義や学び方について理解を深める講座です。

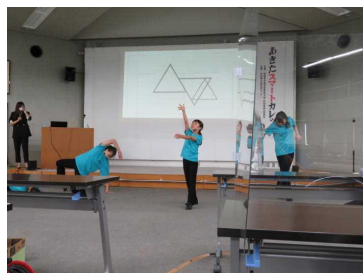
日 時			テ ー マ	講 師
A1	8/21 (土)	13:30～15:00	うきうき！わくわく！ときめく出会い！ ～我が子と駆け抜けた15年～	追分フェスタ・NPO 団体はにかむ 代表 佐藤 存 氏
			バリ舞踊が教えてくれたもの ～バリ舞踊と私～	バリ舞踊グループ ギリ・クンチャナ バリ舞踊家 阿部 歩 氏
A2	8/28 (土)		若者の悩み ～LINE 相談の現場から～	NPO 法人あきた自殺対策センター代表 藤原 悠香子 氏 相談員 鎌田 悠香子 氏
A3	9/4 (土)	10:00～11:30	ダンスを通して育みたい ～人間力を高め明るい秋田へ～	秋田県ジャズダンス協会 会長 西根 千鶴 氏
			スマカレでリスタート	秋田県生涯学習センター職員

A1 地域で開催されている行事に携わり、実行委員長を努めたことから他団体や行政が開催するイベントにも参加・協力するようになり、ついにはNPO団体を立ち上げて活動の幅を広げてきた経緯をうかがいました。学んだことを次の活動へ展開する姿から、きっかけを逃さずに学び続けるヒントをいただきました。



A1 バリ舞踊に出会った経緯をとおして、バリ島やバリ人の生活、バリ人とヒンドゥー教などの様々なテーマに触れていただきました。さらに、踊りの師匠アノム先生からの教え、初めての舞台経験、オダランでの生活などの実践・経験が、バリ舞踊をとおした秋田での活動につながっているお話をうかがい、学びのきっかけとその生かし方について学ぶことができました。

A2 若者の悩みに対応する新たなシステムとして、ICTを活用した相談機能の強化が模索される中、LINE相談が果たしている役割と効果についてお話をうかがいました。支援の入り口として、相談しやすい仕組みづくりが重要であること、SNSを含めたインターネット相談のメリットだけではなく、デメリットについても学ぶことができました。



A3 表現教育は心の成長を促すものであり、表現力を高めることによって人間力が高まり、コミュニケーション力が高まっていくという熱いメッセージを伝えてくれました。一緒に受講してくれたダンススタジオの子どもたちが「即興反応」の実演をとおして、表現力は発想だけではなく反応することが重要であるということを示してくれたことが強烈な印象として残りました。

B 障害のある方のための防災スキル ～知っておきたい災害時の食の備え～

障害のある方が、楽しみながら『防災』を考え、日常生活や災害時に役立つスキルを身に付けることができる4回シリーズの講座です。障害のある方と一緒にスキルを学びたいという方も大歓迎です。

日 時			テ ー マ	講 師
B1	9/18	(土)	10:00～11:30	日本赤十字秋田短期大学 講師 及 川 真 一 氏
B2	10/2	(土)		
B3	11/6	(土)		
B4	12/11	(土)		

B1 平常性バイアス（正常を保とうとする心理）により、災害に対しても「自分は大丈夫」という考えが無意識にはたらくので、備えをいかに日常に落とし込んでいくのかが重要、ということを知りました。日常ある食材を災害時にも活用する方法として、カップ焼きそばを水で戻す体験を行いました。



B2 海外では保存期間が50年に達する非常食もあります。防災食は、まずは食べてみる経験が大切。自分の好きな味を見つけることで、少しでも災害時のストレスが軽減されます。体験では、袋にお湯を注いで数分で食べられるピラフなどを試食しました。



B3 災害時を想定し、屋外でポリ袋を使ってご飯を炊き、レトルト食品を食べました。「ポリ袋は耐熱性のものを使用し、米を入れる時にはできるだけ空気を抜いて上でしばる」、「水は貴重なので、湯せん用の水と炊飯用の水は違ってよい」など失敗を防ぐコツや災害時の水の使い方についても学びました。



B4 アウトドア用品のメスティン、ポケットストーブ、固形燃料で炊飯する体験を屋外で行いました。初めて使用する人もいましたが、100円ショップで購入できることを知り、驚いていました。冬に災害が起こったときには、新聞紙、大きなポリ袋を体に巻き付けることが、体温を保つ工夫にもなります。そうした体験も行いました。



令和3年度 あきたスマートカレッジ C講座内容報告

☑ チャレンジゼミ

地域課題や状況の変化に対し、地域の企業や大学が持つ専門分野や教育資源を活用しながら、共にできることを柔軟に考えて、価値観や視野を広げる講座です。体験型の内容を取り入れる講座もあります。

日 時			テ ー マ	講 師
C1	9/25 (土)	10:00～11:30	【実習】想像力と創造力を育む 3D ペン制作 (障害のある方にオススメ)	ジーニープログラミングスクール マネージャー 佐々木 聡 弥 氏
C2		13:30～15:00	【実習】想像力と創造力を育む Scratch プログラミング (全員にオススメ)	
C3	10/23 (土)	10:00～11:30	【講話・グループワーク】外国人受け入れと社会のかたち ～世界と日本の事例から～	国際教養大学 国際教養学部 グローバル・スタディス課程 助教 堀 井 里 子 氏
C4		13:30～15:00	【講話・グループワーク】コロナ禍後の社会はようになるか ～ビジネスの新しいカタチ～	(株)AKITA COLLECTION OFFICE 代表取締役社長 柿 崎 公 明 氏
C5	11/20 (土)	10:00～11:30	【講話・グループワーク】Youは何しに秋田へ ～ロシアとベトナムの暮らし方や考え方や、コロナ禍での生活改善について話し合おう～	泉 スベトラーナ 氏 グエン パオ ユイ 氏
C6		13:30～15:00	【講話・実習】定住外国人をとりまく日本語支援の現状と課題 ～なんのために日本語を学ぶのか～ (のしろ日本語教室を体験しよう)	のしろ日本語学習会 代表 北 川 裕 子 氏

C1、C2は講師の都合のため、開催を中止しました。

☐ C3 堀井氏は、移民/外国人の受け入れのかたちとして、①日本の文化様式になじませるような支援と、②アイデンティティや慣習を尊重し、その維持を積極的に支援することが大切であると強調しました。そこで、①②の良い点と懸念される点を参加者に考えさせるエクササイズを行い、全員に発言してもらいました。発言内容を受け、移民とその子孫の人口が3割程を占めるスウェーデンの「多文化共生政策」を紹介し、移民の文化継承や母語教育政策、就労・居住、地域の人との交流の促進、子どもの学習権の保護、第二外国語としてのスウェーデン語の提供があることを教えてくれました。後半のエクササイズでは、グループで秋田県が対応すべき支援や配慮を話し合いました。移民/外国人が秋田をふる里とみなすためには、地域住民が自分事として捉え学ぶ姿勢が必要であることを学び取っていました。



☐ C5 泉氏より、ロシアでの学校生活やイベントでの過ごし方を例えに、コロナ禍での生活改善に向けた考え方のヒントをユーモアを交えながら紹介いただきました。ロシアの学校ではクラス替えがなく、クラスメートと10年間一緒に過ごすそうです。家族に近い関係になり、いじめやひきこもりのような問題はまず無いと語られました。また、先生は生徒がわからない問題があれば、授業が終わってからも徹底的に教え、学校で解決していくそうです。このように、ロシア人は幼少期から鍛えられる環境があるため、精神的に強く、取り組み方が徹底していると話しました。このコロナ禍でもその国民性はストレスに対してタフで、泉さん自身も自分でできることに挑戦し続けていくことで気持ちを上げているとお話してくださいました。(講師の都合によりベトナムについての講話は中止。)



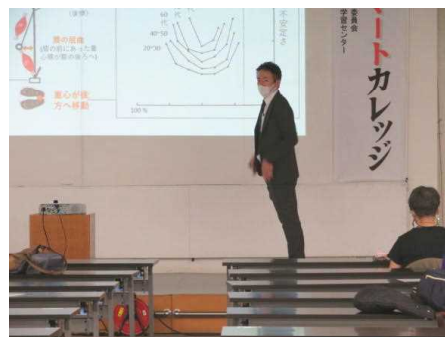
令和3年度 あきたスマートカレッジ D講座内容報告

㊦ あきた教養講座

様々な分野・観点から秋田を学び、秋田のよさを再発見することを通じて、今後の社会生活を豊かにする講座です。

日	時	テ	マ	講	師
D1	8/28 (土)		ツキノワグマの話をしよう ～秋田のくらしを守るために～	秋田県自然保護課/ツキノワグマ被害対策支援センター 主任	近藤麻実氏
D2	9/11 (土)		人とのつながり、地域づくり ～秋田に移住し、地域の中心となって～	写真家	遠山桂太郎氏
D3	10/9 (土)	10:00～11:30	良い姿勢と動作で現役続行 ～健康を保つ姿勢、日常動作～	秋田県立大学 総合科学教育研究センター 准教授	内山応信氏
D4	10/30 (土)		認知症を前向きにとらえるために ～回想法（認知活性化療法）を通して～	秋田大学大学院 医学系研究科保健学専攻 准教授	浅野朝秋氏
D5	11/13 (土)		男鹿市琴川の自然、コーヒーと蛸と音楽に魅せられて ～山が生きる仕事～	蛸音合同会社 代表社員	佐藤駿氏
D6	11/27 (土)		秋田の郷土料理 ～がっことしよつつるときりたんぼ～	有限会社お多福 代表取締役	安倍太郎氏

D3 内山氏より、秋田県民のからだの特徴（特に、姿勢や歩行動作に係わる体力）について、様々なデータ分析や文献に基づいた丁寧なご教示がありました。例えば、各体力要素の加齢に伴う低下パターンに関して、加齢による低下が最も著しいのは「バランス能力」であり、その理由は多様な身体機能が複合されている能力であるためということでした。また、秋田県（南外村）の高齢者と都市部住民との体力の比較では、敏捷性や動的なバランス能力も含めて、地域差はほとんど無いという結論が出されたとのことでした。後半は、「その場でできるストレッチ」の時間でした。内山氏は模範を示しながら受講者と一緒に行ってくださいました。それにより効果的なポイントが受講者にわかりやすく伝わり、受講者の実感を伴った理解とスキルの習得につながりました。このような理論と実践の往還により、受講者の健康維持に対する意識は高められ、とても有意義な講座となりました。



D4 浅野氏より、「認知症」に関する基礎知識や認知症になりにくい生活習慣について、豊富な資料の提示とともに説得力のあるご教示がありました。例えば、年齢と発症率に関して、80歳を超えると発症率が急激に上昇する傾向があるということでした。また、その99%は孤発性であるため、認知症の本質は脳の老化であり、故に個人差が大きく発症をできるだけ遅らせる予防が重要であるとのことでした。後半は、回想法（認知活性化療法）について体験的に紹介していただきました。具体的には、「60年前の秋田（さきがけ新聞から）」というテーマで、当時の主な出来事や生活様式などを浅野氏と受講者が対話形式で回想しました。これにより受講者は、思い出すことで楽しい気分になること、交流・会話が生まれること、教えたり発信する側になることで自尊心が満たされることなどの回想法の利点を自然に理解できたようです。



令和3年度 あきたスマートカレッジ E講座内容報告

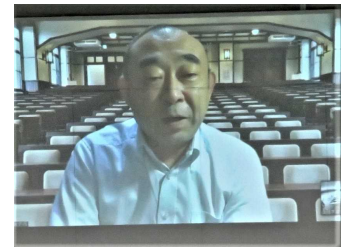
Ⅱ 東大史料編纂所協力講座 ～佐竹文書の世界～

東京大学史料編纂所の共同研究に協力する研究者が、秋田県や佐竹氏に関わる史料に基づく研究成果を直接県民のみなさんにお伝えする講座です。最先端の歴史学の成果にふれるまたとない機会です。

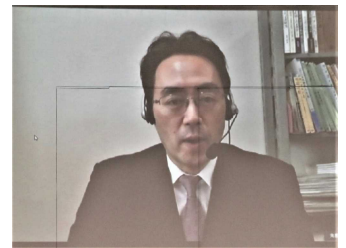
日 時			テ ー マ	講 師
E1	9/11	(土)	13:30～15:00	佐竹文書にみる豊臣政権と佐竹氏 東京大学史料編纂所 准教授 金子 拓 氏
E2	10/9	(土)		佐竹文書と南北朝時代 東京大学大学院 人文社会系研究科 准教授 高 橋 典 幸 氏
E3	11/6	(土)		佐竹文書にみる江戸時代前期の武家社会 東京大学史料編纂所 助教 林 晃 弘 氏
E4	12/11	(土)		佐竹文書の修理と紙について 東京大学史料編纂所 技術専門職員 高 島 晶 彦 氏

佐竹文書とは、元禄10（1697）年に開始された秋田藩家中の「文書改」により提出された古文書のうち、佐竹家当主に充てられた文書などが佐竹家本家に留め置かれたもので、現在は財団法人千秋文庫が収蔵しています。

E1 佐竹文書の中には、豊臣秀吉や豊臣秀次の朱印状、奉行衆の連判状等が伝わっています。それらの内容を調べていくと、1580年代後半、北関東に勢力を築いた佐竹氏が、近しい関係にあった蘆名氏を巡り伊達氏と衝突を繰り返した動きが見えてきました。佐竹氏は石田三成や一族の東義久を仲介者として秀吉との接近を図り、小田原攻め最中の1589年、当主の佐竹義宣が秀吉に拝謁することで服属を明確にし、領土の多くを安堵され、その地位を固めることに成功しました。



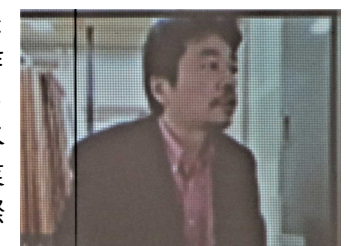
E2 佐竹文書には鎌倉時代の文書はなく、南北朝期の文書も4点しかありません。しかしその大部分は、足利直義からの文書でした。当初建武政権側だった佐竹氏は、足利尊氏側に従い、建武政権を離反します。その後の観応の擾乱において、当初は佐竹氏は足利直義方に立っていました。その際のやりとりが、佐竹文書に残った史料でした。佐竹氏はその後、足利尊氏側に立ちましたが、他の家に伝わった佐竹氏宛文書も利用し、これら一連の流れを追いました。



E3 佐竹文書には、通常残されないような「日常の付き合い」をうかがわせる史料が多く残っています。これらのうち、寛永3（1626）年に年代が特定できる書状が多いのが特徴です。それらの書状や「梅津政景日記」を読み解く中で、この年行われた徳川秀忠・家光の上洛とそれに伴う当主佐竹義宣の上洛、徳川家光の二条城行幸に伴う準備のための大名間の情報交換の様子などが見えてきました。



E4 佐竹文書は長く、台紙に糊付けされた状態で保管されてきたため、展示・閲覧が困難でした。これを解消するため、台紙から外す作業が行われました。その際の手順について、興味深いお話を伺いました。徐々に湿り気を与えることで糊の粘着力を弱めて取り外し、浄水でクリーニングした後、文書の紙質調査を行います。その後補修作業を行い完成という流れを、初めて知ることができました。また、実際に使用する道具を見ることもでき、大変勉強になりました。



令和3年度 あきたスマートカレッジ F講座内容報告

県民読書おすすめ講座

世界の文化・社会に関する様々な諸相と現代への関連・影響について、国際的専門分野で活躍する教授陣から学ぶことで、新たな読書の扉を開くことにつながる講座です。

日 時			テ ー マ	講 師
F1	9/4	(土)	13:30～15:00	台湾文学における「日本」 ～台湾人アイデンティティと日本統治時代～ 秋田大学 教育文化学部 准教授 羽 田 朝 子 氏
F2	10/2	(土)		文学と狂気 ～20世紀のフランスの作家と作品に見る「狂気」の実践について～ 秋田大学 教育文化学部 准教授 小 倉 拓 也 氏
F3	10/16	(土)		韓国・済州島からみた東アジアの戦後 ～済州島四・三事件と日本のかかわり～ 秋田大学 教育文化学部 准教授 高 村 竜 平 氏
F4	10/30	(土)		ドイツ・ロマン主義の光と影 ～ゲーテからドイツ統一、ナチズムと東西分断を経て再統一まで～ 秋田大学 教育文化学部 講師 中 村 寿 氏
F5	11/13	(土)		スポーツからみたイギリス文化 ～テニス・ラグビー・サッカーなどを切り口に～ 秋田大学 教育文化学部 特別教授 佐々木 和 貴 氏
F6	11/27	(土)		グリム兄弟の仕事 ～「グリム童話」の時代と読み方いろいろ～ 秋田大学元教授 代表取締役 川 東 雅 樹 氏

※F6は、講師の都合のため、開催を中止しました。

F2 各時代における狂気、文学と狂気における言語の自律性及び言語の物質性、文学における狂気の実践の意義を主な項目として、講座が展開されました。

「狂気」とは、非日常あるいは一般的ではない状態や非合理性をもった存在として認識するものを指すそうです。古代・中世では社会に不可欠とされていた狂気が近代では排除される対象となった変遷や、フランス文学のとりわけ「シュルレアリスム」における言語と狂気のかかわりを20世紀的見地から考察した場合など、これまでにはなかった哲学分野の専門性に富んだ講座となりました。



F3 済州島の概要、済州島四・三事件の概要、四・三事件と日本とのかかわり、四・三事件からみた東アジアの戦後を主な項目として、講座が展開されました。

1948年、戦後の米軍政下で南朝鮮のみの独立選挙が決定されたことに対して、4月3日に共産主義勢力が武装蜂起し、当局による鎮圧行動が住民大虐殺につながった事件であったことの解説を軸に、多角的な立場からの事件を考察されました。隣国でありながら、あまり知られていない史実と日本とのかかわりも深い歴史の連続性について、受講者は学びを深めていました。



F4 現代のドイツにおける文学への認識、ドイツ・ロマン主義の代表作であるゲーテ・著『ファウスト』、ドイツの統一・再統一、ロマン主義の光と影を主な項目として、講座が展開されました。

19世紀、ドイツでは統一国家の建国にあたり、言語の統一が鍵であり、国民文学の存在が不可欠とされたそうです。これが第2次世界大戦後は逆のこととなり、ナチス支配の反省をもとに、ドイツ文化について統一的な見解をもつことは否定され、学校での古典教育も行われなくなったそうです。このことは、受講者にとって、外国における文学の地位や果たす役割の大きさを知る新たな学びの機会となりました。



令和3年度 あきたスマートカレッジ G講座内容報告

北条常久特別企画講座

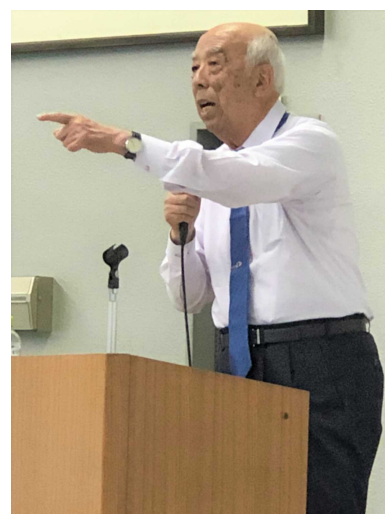
文学博士・北条常久が、高度成長と混乱の社会を駆け抜けた作家4人を取り上げます。作品を読み解き、各作家とその作品を取り巻く社会と時代背景を追求する講座です。

日 時			テ ー マ	講 師
G1	6/26	(土)	石原慎太郎とその時代 ～戦後派青年が躍動する～	秋田県生涯学習センター シニアコーディネーター 北 条 常 久
G2	8/21	(土)	大江健三郎の世界 ～消えぬ戦争の爪痕～	
G3	10/16	(土)	村上春樹の登場 ～日本文学の枠を超えて～	
G4	12/18	(土)	浅田次郎の大衆性 ～現代の大衆文学から時代を拓く～	

※G1講座の前には、開講宣言が行われました。

※G3講座では、特別ゲストに前・秋田県教育長 米田 進 様をお迎えしました。

G1 石原慎太郎氏略年譜、「太陽の季節」、「処刑の部屋」、「巷の神々」、「弟」、「湘南夫人」を主な項目として、講座が展開されました。講師は、石原氏を「戦後直後の世代」と位置づけました。戦争中に大人が強いた拘束的なモラルを打ち破り、目の前のものを信じて、何者にもぶつかりながら自由気ままに生きる新たな世代像が、戦後石原氏によって形作られたことを述べました。自分の生き方を作品に投影し、友情や愛情をどう考えたらよいのかを投げかけた氏は、人々に新たな時代・世界への憧れを与えたことに言及しました。また、石原氏兄弟の活躍が、映画・テレビの新時代を拓いたことや鎌倉・湘南を日本の消費世界の中心として流行させたことについてもふれ、一作家にとどまらない戦後日本における影響力の大きさを示唆していました。



G3 講師は、村上春樹氏略年譜、『ノルウェイの森』を、米田氏は、「ノルウェイの森」ジェイ・ルービンによる英語版を覗く、村上春樹「羊をめぐる冒険」についてを、主な項目として講座が展開されました。講師は、村上氏についての注目すべき点として、作品の底流には文学作品としてのあり方よりも宗教的な生死観を伴った精神のあり方が厚みをもって存在することや、学生時代には安保闘争といった学生運動にはのめりこまず、学生結婚やジャズ喫茶を開店するなど早くから自立の姿があったことを挙げました。ベストセラーで知られる『ノルウェイの森』には、こうした作家の人生観が織り込まれていることを述べたほか、男女の恋愛の描き方がこれまでの日本の小説にはないものだった点から本著は近代文学ではなく現代文学といえると考察し、私たちがもつ「生と死」といった問いを発している点が村上文学が現代文学といえる所以であることなどを指摘しました。米田氏は、ジェイ・ルービンによる英訳を題材に、日本語原文と英語訳における描写やニュアンスの比較・差異についての分析を話されました。また、村上氏の生死観についても着目され、「羊をめぐる冒険」にその転換点が認められることや『ノルウェイの森』の装丁色における赤＝生、緑＝死という特徴的表現についても考察を披露されました。両氏の話から、村上作品を読み解く上で、貴重な視点が得られた講座でありました。



関連図書コーナー設置 秋田県立図書館との連携で、「スマカレ関連図書コーナー」が、今年度も同図書館2階の閲覧室内に設置されました。講師の北条氏監修のもと、各回のテーマに関連する図書が一堂に取り揃えられました。受講にあたっての予習や受講後の自主学習にと、たくさんの御利用をいただきました。

